

イギリス・ウィークリーレポート

(くりっく株365: FTSE100 証拠金取引)

FTSE100証拠金取引は、「FTSE100」の数値(円換算前の原数値)をもとにした価格(マーケットメーカーが提供する価格)により取引されます。「FTSE100」の数値×100円を売買単位(1枚)とし、円建てで取引が可能です。



FTSE100の株価展望

株式会社DZHフィナンシャルリサーチ
シニア・アナリスト 野口文高

このレポートでは...

1. 世界経済は、成長ペースが加速すると予想されています。
⇒ 国際通貨基金(IMF)は10月に世界の経済成長率を下方修正しましたが、成長ペースが加速して4%台の成長に戻るという大きなシナリオに変更はありません。
2. 主要先進国は、超金融緩和政策を続けています。
⇒ 2008年のリーマン・ショック後に主要先進国が採った超金融緩和政策が世界経済の回復を支えています。イギリスの中央銀行も、低金利政策と量的緩和を続けています。
3. イギリスの景気は強く、経済成長率は上方修正されています。
⇒ イギリスの景気は最近回復ペースを強めており、上述のIMF「世界経済見通し」ではイギリスの経済成長率が大幅に上方修正されています。
4. このような状況下、FTSE100構成銘柄の利益水準は過去最高となる見込みです。
⇒ イギリスの景気が回復ペースを強める中、企業収益がさらに上振れする可能性も高いのではないのでしょうか。

[取引対象株価指数]

FTSE100

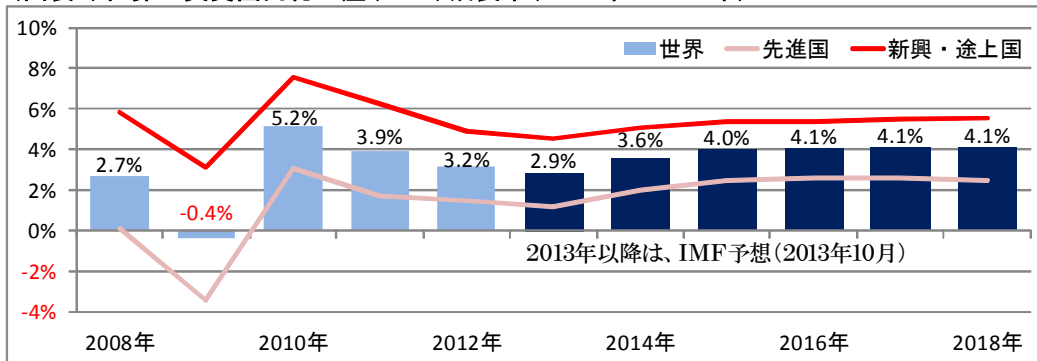
「FTSE100」は、ロンドン証券取引所に上場する株式銘柄のうち、最も時価総額が大きく流動性の高い優良企業100銘柄で構成されています。



世界経済は、成長ペースが加速すると予想されています

世界経済の成長ペースは、2014年以降に加速すると予想されています。(図表1)は国際通貨基金(IMF)が10月に発表した世界経済見通しをまとめたものです。世界の実質国内総生産(GDP)成長率は、2013年は前回(7月)予想の3.2%から2.9%に、2014年は同3.8%から3.6%に下方修正されましたが、世界経済の成長ペースが加速して4%台の成長に戻るという大きなシナリオに変更はありません。

(図表1) 世界の实質国内総生産(GDP)成長率(2008年~2018年)



出所: IMF「世界経済見通し」データベース(2013年10月)のデータより、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ作成。

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際の投資をなさる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートは当社が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本レポートを原因とするお客様の直接あるいは間接的損失および損害については一切補償には応じません。

Copyright 株式会社DZHフィナンシャルリサーチ

本レポートは、本取引所が株式会社DZHフィナンシャルリサーチから提供を受けて公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は株式会社DZHフィナンシャルリサーチに帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。株式会社東京金融取引所



金融取

東京金融取引所

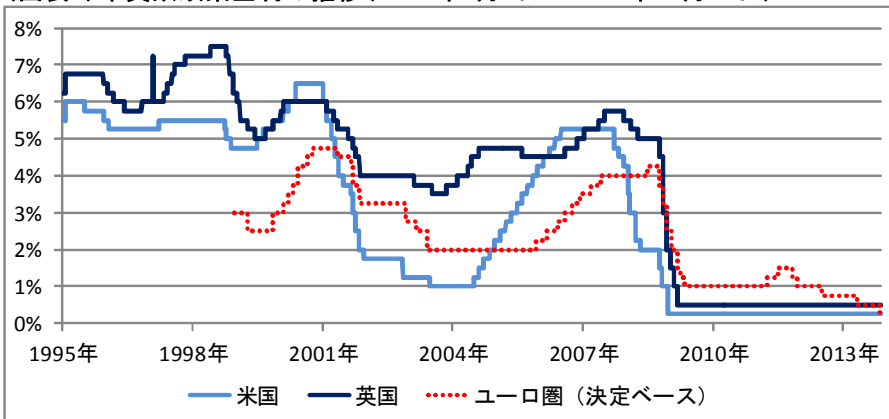
* 本商品は預託すべき証拠金の額に比して取引金額が大きいいため、相場次第で差し入れた証拠金以上の損失が発生することがあります。



主要先進国は、超金融緩和政策を続けています

世界経済の回復を支えているのは、2008年9月のリーマン・ショック後に主要先進国が採った(図表2)に示す超金融緩和政策です。米国では、連邦準備理事会(FRB)が2008年12月に実質ゼロ金利の採用に踏切った後、3度の量的緩和を実施しました。イギリスでも、中央銀行のイングランド銀行はリーマン・ショック直後の2008年10月から2009年3月までに政策金利を5.0%から0.5%に引き下げたことに加えて、2009年3月に量的緩和を導入しました。その後、現在にいたるまで政策金利は0.5%の低水準で据え置き一方、量的緩和の規模は750億ポンドから3,750億ポンドに5倍増させています。

(図表2) 米英欧政策金利の推移(1995年1月2日～2013年11月13日)



出所: ブルームバーグのデータより、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ作成。



イギリスの景気は強く、経済成長率は上方修正されています

このような超金融緩和政策が効果を表わして、イギリスの景気は回復しており、最近ではそのペースが強まっています。国際通貨基金(IMF)が10月に発表した「世界経済見通し」では、(図表3)に示すようにイギリスの経済成長率は大幅に上方修正されました。新興国・途上国の景気が従来予想よりも減速ペースを強めることなどから、2013年の世界の経済成長率は昨年(2012年)の3.2%から7月予想よりも0.3%低い2.9%に鈍化するとみられますが、イギリスの経済成長率については、2013年は7月予想よりも0.5%高い1.4%、2014年は同0.4%高い1.9%になると予想しています。

(図表3) IMF世界経済見通し

実質GDP成長率(カッコ内は、前回(7月)予想からの変化)

	2012年実績	2013年予想	2014年予想
イギリス	0.2%	1.4% (+0.5%)	1.9% (+0.4%)
アメリカ	2.8%	1.6% (-0.1%)	2.6% (-0.2%)
日本	2.0%	2.0% (-0.1%)	1.2% (+0.1%)
ユーロ圏	-0.6%	-0.4% (+0.1%)	1.0% (0.0%)
先進国	1.5%	1.2% (0.0%)	2.0% (0.0%)
新興国・途上国	4.9%	4.5% (-0.5%)	5.1% (-0.4%)
世界	3.2%	2.9% (-0.3%)	3.6% (-0.2%)

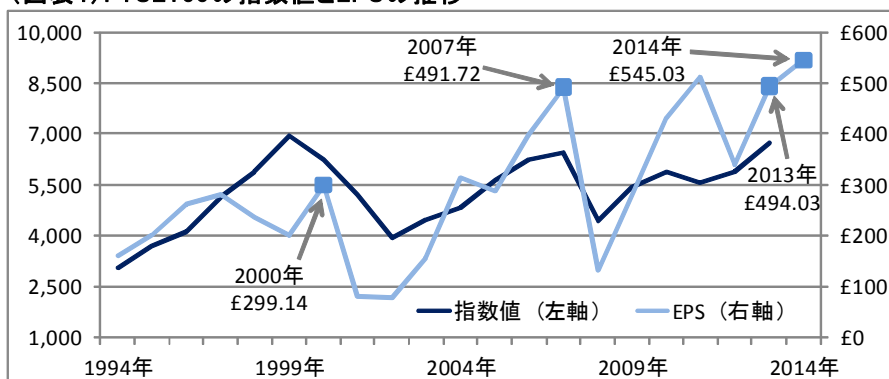
(出所) IMF「世界経済見通し」(2013年10月)により、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ作成。



このような状況下、FTSE100構成銘柄の利益水準は過去最高となる見込みです

世界的な超金融緩和政策による経済の持ち直しは、企業業績にも好影響を与えています。(図表4)は1994年から毎年のFTSE100の指数値と1株あたり利益(EPS)の推移を示したものです。2014年の予想(11月6日現在)EPSは545.03ポンドで、リーマン・ショック前の2007年の1.11倍となる見込みです。FTSE100の2007年の高値は6,732ポイントでしたが、単純に指数値がEPSと同じ割合で上昇すると仮定すると、2014年のFTSE100は現在(11月6日)よりも10%以上高い7,462ポイントに上昇すると試算されます。イギリスの景気が回復ペースを強める中、企業収益が上振れすればFTSE100がさらに上値を試す可能性も高いのではないのでしょうか。

(図表4) FTSE100の指数値とEPSの推移*



* 指数値は1994年～2012年の各年末と2013年11月6日終値、EPSは1997年～2014年のブルームバーグ集計で、2013年以降は予想(11月6日現在)。

出所: ブルームバーグのデータより、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ作成。

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際の投資をなさる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートは当社が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本レポートを原因とするお客様の直接的あるいは間接的損失および損害については一切補償には応じません。 Copyright 株式会社DZHフィナンシャルリサーチ
本レポートは、本取引所が株式会社DZHフィナンシャルリサーチから提供を受けて公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は株式会社DZHフィナンシャルリサーチに帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。 株式会社東京金融取引所

* 本商品は預託すべき証拠金の額に比して取引金額が大きい為、相場次第で差し入れた証拠金以上の損失が発生することがあります。